

報道関係各位

第10回日本SC大賞・金賞は、『ルクア大阪』 第8回地域貢献大賞(倉橋良雄賞)は、『流山おおたかの森S・C』に決定

一般社団法人日本ショッピングセンター協会(会長:清野 智)では、『第10回日本SC大賞・第8回地域貢献大賞』を2025年4月23日(水)開催の2025年度第1回理事会にて決定しましたのでお知らせいたします。

全国のショッピングセンター(以下、SC)を対象に、当協会全国7支部での支部ノミネート委員会の選考(第一次選考)を経て本部選考委員会で審査した結果、**第10回日本SC大賞・金賞**には、『**ルクア大阪**』(大阪府大阪市)を、**第8回地域貢献大賞(倉橋良雄賞)**には、『**流山おおたかの森S・C**』(千葉県流山市)を選出しました。また「支部特別賞」は、支部ごとに1SCを選出しました。

なお、日本SC大賞・金賞を受賞した『ルクア大阪』には「経済産業省商務・サービス審議官賞」が、地域貢献大賞(倉橋良雄賞)を受賞した『流山おおたかの森S・C』には「国土交通省都市局長賞」が併せて授与されます。

表彰式は、2025年6月2日(月)に、ホテルニューオータニ(東京都千代田区)で開催する当協会「第53回定期総会」当日に執り行います。

■第10回日本SC大賞



金賞 / 経済産業省商務・サービス審議官賞
ルクア大阪
(大阪府大阪市)

■第8回地域貢献大賞



地域貢献大賞(倉橋良雄賞) / 国土交通省都市局長賞
流山おおたかの森S・C
(千葉県流山市)

銀賞	軽井沢・プリンスショッピングプラザ (長野県北佐久郡軽井沢町)
ニューフェイス賞	阪急西宮ガーデンズ(兵庫県西宮市)
リノベーション賞	麻布台ヒルズ(東京都港区)
ES賞	フォレストサイドビル(専門店街フォーリス、ミッテン府中) (東京都府中市)
特別賞	ラブリーパートナー エルパ(福井県福井市)
	星が丘テラス(愛知県名古屋市中)

地域貢献賞	maruyama class(北海道札幌市)
	エスパル仙台(宮城県仙台市)
	マーサ21ショッピングセンター (岐阜県岐阜市)
	ピオレ姫路(兵庫県姫路市)
	さんすて福山(広島県福山市)
	イオンモール宮崎(宮崎県宮崎市)

<支部特別賞>

【北海道】HOKKAIDO BALLPARK F VILLAGE(北海道北広島市)、【東北】イオンモール新利府(宮城県宮城郡利府町)、【関東・甲信越】三井ショッピングパーク ららぽーとTOKYO-BAY(千葉県船橋市)、【中部】JRセントラルタワーズ/JRゲートタワー(愛知県名古屋市中)、【近畿】くずはモール(大阪府枚方市)、【中国・四国】イオンモール広島府中(広島県安芸郡府中町)、【九州・沖縄】三井ショッピングパーク ららぽーと福岡(福岡県福岡市)

<本件に関するお問合せ先>

【SC大賞担当】総合企画部:大内・金田
Tel 03-5615-8510 Mail.member@jcsc.or.jp

【広報担当】情報・リレーション部:浅田・高橋
Tel 03-5615-8524 Mail.pr@jcsc.or.jp

【参考】日本SC大賞・地域貢献大賞について

当協会創立30周年を記念して、これからのSCのあり方を示唆し、社会的役割を果たしているSCを顕彰し、SC業界の一層の発展に寄与することを目的として2004年に「日本SC大賞」を創設。また、当協会が策定した「地域貢献ガイドライン」（2007年1月）をもとに、地域活性化に取り組み、地域のコミュニティの核として地域住民の生活に欠かせない地位を築いているSCを表彰する「地域貢献大賞（倉橋良雄賞※）」を2008年に創設しました。

※故・倉橋良雄氏

倉橋良雄氏は、1962年に欧米視察に訪れるなど早い時期からSCの研究に着手。日本初の本格的な郊外型SCである「玉川高島屋ショッピングセンター」（1969年開業）の開発に携わりました。当協会の前身である、「ショッピングセンター研究会」を発足し、その後、当協会の立ち上げに尽力され、1989年5月に第2代会長に就任。SC業界および協会の発展に尽力された功績は大きく、特に、「SCは、地域に根ざした施設であり、地域社会・地域住民との協調なくして成功はない。また、SCの成功は地域発展を促進するなど、地域貢献に寄与する」と常々提唱し実践されました。2003年8月死去。

日本SC大賞・地域貢献大賞サイト

https://www.jcsc.or.jp/sc_support/scawards



1. 受賞施設と選考理由

(1) 第10回日本SC大賞

金 賞／経済産業省商務・サービス審議官賞「ルクア大阪」（大阪府大阪市）

【選考理由】

消費者の価値観変化に対応した顧客サービスのアイデアの豊富さや、「バルチカ03」などテナントリーシングに長けている点 that 特筆される。関西初や日本初のブランド誘致や、ナイトショッピング企画（営業時間終了後にテナント主体でロイヤルカスタマーを招待し、限定品やイベント、軽飲食を提供、顧客とのつながりを醸成）など特別感のある売り方で他施設と差別化を図っている。来館促進施策では、「妄想ショップ」や「ため息をときめきに変える」企画など共感を集めてファンづくりを狙うイベントを増やし、来館価値を高めている。ES（従業員満足）面では、営業時間の短縮のほか、従業員のウェルビーイング向上のため、24時間365日対応のオンライン相談サービス「ルクア保健室」を提供する。オンライン研修や接客ロールプレイングコンテストなどテナントスタッフの人材育成も積極的に行っており、テナントとのパートナーシップを醸成している。立地におごらず、さまざまな取り組みを行い、地域のプラットフォーマーとして、ほかのSCの見本となる総合力の高さが評価された。

銀 賞「軽井沢・プリンスショッピングプラザ」（長野県北佐久郡軽井沢町）

【選考理由】

オープン当初は売上9億円であったが、2023年度は565億円と大きく伸長し、リゾート型アウトレットとして国内を代表する施設に成長した。ラグジュアリーブランドをはじめ数多くのテナントを集積し、買い物の場としての魅力を訴求するだけでなく、“軽井沢らしさ”にこだわった体験価値・イベントに注力している。敷地内の「芝生のひろば」では、テナントに貸し出して誘客を手助けしたり、グランピングデコレーションを施したグラスサイトリビングやクラフトビール祭り、映画上映など、自然を生かしたイベントが集客に奏功している。インバウンド客も売上に貢献しており、課題であった冬季の集客も改善している。ES面では、テナント店長によるCS・ES向上委員会の設置や従業員休憩室の改装なども評価された。

銀 賞「阪急西宮ガーデンズ」（兵庫県西宮市）

【選考理由】

本館は2008年に開業。ゲート館や別館の開業でさまざまな業種を集積している。プラス館では商業・オフィスに加えて賃貸住宅を付設、近隣には大学や芸術文化センターが先行して開業（2005年）しており、街の機能が面で広がり、そのブランド価値を高めている。2024年春のリニューアルでは28店舗を新規導入、移転・改装も含め45店舗が開店し、回遊性が向上して売上を伸ばした。CS（顧客満足度）向上のため、2023年秋には本館5階にキッズスペースを新設し、2024年春は阪急電車との協業によるベビールームの改装、屋上スカイガーデンの東側への人工芝とベンチの設置など共用部の改装を行った。来館者の利便性向上や快適な空間での居心地の良さなども支持されている。地域連携については、甲南大学と連携協定を締結し、同大学マネジメント創造学部の新カリキュラムと協業するほか、松蔭高等学校（神戸市）の学生が企画した環境啓発活動「Blue Earth Project」を開催するなど、産学連携による“新しい気づき”も施設運営の改善に生かしている。

ニューフェイス賞「麻布台ヒルズ」(東京都港区)

【選考理由】

森ビルのヒルズ開発の集大成と位置付けられ、「Green&Wellness」をテーマとしている。商業施設の開発というよりも「街をつくっている」という意識で、文化やアート発信も含め、麻布台エリアにとどまらず「東京の価値を高める」魅力を発信している。近隣に居住する外国人を含む高所得者層のニーズにも応える「エルメス」や「カルティエ」などの海外ラグジュアリーブランド、全国の名店を揃えたデイリーマーケット、オフィスやレジデンス、ホテルの利用者向けのテナントを集積し、あらゆる顧客に対応している。中央広場には植栽やパブリックアートを展示し、地下1階には「森ビル デジタルアート ミュージアム：エプソン チームラボボーダレス」が開業、国内外からの集客が期待される。「逃げ込める街」として帰宅困難者対策を行うなど防災面にも注力している。エリア全体で自然に触れ、快適な空間をつくり上げている点なども評価された。

リノベーション賞「フォレストサイドビル(専門店街フォーリス、ミッテン府中)」(東京都府中市)

【選考理由】

キーテナントの百貨店退店後をリノベーションした「ミッテン府中」は、大型家電量販店「ノジマ」が初のSCリノベーションを行い、「ノジマ」の旗艦店と地域住民のニーズに対応した雑貨、食品、飲料、サービスなどのテナント75店舗を集積した。隣接する「専門店街フォーリス」には府中市の「子育て世代包括支援センター『みらい』」が入居、子ども関連のクリニックや教育関連のテナントの集積も奏功して子育て世代の利用が増え、入館者数、売上ともに伸長している。ES面では、2024年4月よりスタッフ研修を本格的に実施し、人材育成に注力している。百貨店退店後の再生事例として評価された。

ES賞「ラブリーパートナー エルパ」(福井県福井市)

【選考理由】

地元事業者(専門店)の協同組合、いわゆる「福井方式」と呼ばれる運営で、地域事業者を中心に約80店舗を集積する。特にES施策が充実し、店休日は年間14日間、営業時間は10時間、託児所・保育園を完備し従業員やテナントスタッフは保育費や飲食費用が無料など、人手不足時代におけるSC運営の先駆的な取り組みといえる。地域住民とのコミュニティづくりでは、フードコートのアイドルタイムを活用して「こみかる」という若者や高齢者の居場所づくりをサポートするなど、サードプレイスとしての役割を担う。「利益ではなく地元事業者の生き残る場所を守ること、従業員が働くことが生きがいになる」を目指して、出店事業者の就業環境の改善や、経営支援に努めている。

特別賞「星が丘テラス」(愛知県名古屋市)

【選考理由】

当SCは、東山動植物園や椋山女学園大学に隣接する文教地区に位置する。緑豊かな周辺環境を生かし植物を中心にとらえたブランディングや、自営マルシェ、独自イベントの運営など地域特性を生かした街づくりで他施設と差別化を図る。地元住民が当SCの植栽に関わる活動「星のガーデナープロジェクト」では、植物を育てることを通じて、街や施設に対する愛着が醸成されている。さらに、隣接する植物園・大学と連携した植物を通じた環境教育「フローティングフラワー(ロスフラワーの活用)」なども評価された。



銀賞
軽井沢・プリンスショッピングプラザ



銀賞
阪急西宮ガーデンズ



ニューフェイス賞
麻布台ヒルズ



リノベーション賞
フォレストサイドビル
(専門店街フォーリス、ミッテン府中)



ES賞
ラブリーパートナー エルパ



特別賞
星が丘テラス

(2)第8回地域貢献大賞

地域貢献大賞(倉橋良雄賞)／国土交通省都市局長賞「流山おおたかの森S・C」(千葉県流山市)

【選考理由】

流山市と連携し、新たな鉄道の開業とそれに伴う住宅開発の進展を見越しながら、長期的な街づくりの視点で街の必要機能を提供し続けている。子育て共働き層にやさしいSCで、地元生活者も「自分たちのSC」との意識が高い。住民のニーズに応えるため、本館の機能強化に加え、別館として「ANNEX1・2」(2014年・2022年)や「FLAPS」(2021年)等を開業し、現在10館体制で運営。SC周辺の面開発を行うことで地域のアンカーとしての役割を担い、街の価値を高めている。また、2023年には地域のコミュニティづくりの拠点として「おおたかの森LOOP」を新設した。地域住民やNPO、周辺企業、行政等と連携し、コミュニティ活動の場として地域に根ざす存在になることを目指している。また、参加者同士の交流を深め、さまざまなコミュニティ形成を実現させて活動を拡大している。ES面では、テナントスタッフ向け食堂設置を計画するなど、ESの意識も高い。街の成長と歩調をあわせ、地域への貢献度が非常に高いことが評価された。

地域貢献賞「maruyama class」(北海道札幌市)

【選考理由】

2009年の開業以来継続的に売上を伸ばし、開業15周年を迎えた2024年度は全館売上約91億円と過去最高を更新した。テナントの約7割を道内企業で構成し、エリア特性を生かした店舗展開を図っているほか、地元住民に向けたスーパー・食物販テナントが充実している。ES面では、マネジメントオフィススタッフの「テナントスタッフに寄り添い共に歩む」を基本姿勢に、従業員休憩室の改装やセール時期のスイーツ提供などを行っている。こうしたテナントスタッフへの感謝・応援する風土、支援策によって、テナントとの協働意識の醸成を図り、接客力向上や売上増につながっている。2024年春より地元町内会の一員として歩道の花壇(7カ所)を管理するなど地域連携も評価された。

地域貢献賞「エスパル仙台」(宮城県仙台市)

【選考理由】

東北のゲートウェイとして国内外からの利用客を迎えるJR仙台駅ビルである同SCは、震災復興・地域連携・農業振興を目的に、仙台市の集団移転跡地の利活用事業である観光農園「JRフルーツパーク仙台あらはま」で収穫した果物等の販売や、地元企業とクラフトビールを共同開発するなど地域再生復興に貢献している。また、「白石産のササニシキ復興プロジェクト」で地元短大と連携してササニシキ活用商品を販売したり、被災地石巻市の高校生がバイヤーとなり地元逸品を販売するなど、テナントや地域企業との取り組みも多く、地域企業のインキュベーション機能、地域のプラットフォームとしての役割を果たしている。ES面では、テナントスタッフの人手不足対策として、営業時間の繰り上げや近隣大学の学生へのアルバイト募集活動などにも積極的に取り組んでいる。

地域貢献賞「マーサ21ショッピングセンター」(岐阜県岐阜市)

【選考理由】

川島紡績旧正木工場跡地に1988年に開業した当SCは、「少子高齢化」「地方都市」「単館」「競争激化」という厳しい環境下で、「地域に密着して地域に貢献する」コミュニティーセンターとしての実績を着実に築いている。7年単位で実施しているリニューアル投資は、「SC運営で得た収益を施設へ再投資して地元へ還元する」という姿勢を守る。地元高校生が参加して商品開発から店舗運営、接客などを競う「岐阜県商業達人カップ」では将来を担う若者の育成を支援しており、このほかにも地域の学校の活動の場になっている。館内盆踊り大会や長良川花火大会での屋上開放、キッズクラブの活動を通じて地域住民の憩いの場を提供している。行政・地域との連携では、高齢者対象「ほっこり広場」、福祉フェア、防災訓練に取り組むなど地域貢献度が高い。

地域貢献賞「ピオレ姫路」(兵庫県姫路市)

【選考理由】

JR西日本アーバン開発(株)本社の地域共生チームと連携した地域共生・貢献策を展開し、地域のネットワークをつなぐプラットフォームの役割を担う活動が目立つ。2018年には常設のイベントスペース「ピオレラボ」を新設、2022年は姫路駅北口西側の駅前広場に「姫路市ウォークブル推進計画」に基づく実証実験の場として交流拠点「ピオレラボガーデン」を新設して、JAや地元企業、漁協などによるマルシェ開催など、地元との連携に取り組んでいる。さらに2021年には地域子育て支援拠点の行政施設「姫路駅前すくすくひろば」を開設した。駅立地を生かした地域の交流拠点、姫路市との連携も継続的に行われており着実に成果が出ている。

地域貢献賞「さんすて福山」(広島県福山市)

【選考理由】

「福山サントーク」として開業し、2024年に50周年を迎えた当SCは、屋上広場を活用して、地元企業や、周辺店舗、学校などを巻き込んだ地域活性化策を積極的に行っている。「福山の玄関口である『さんすて』は、地元の魅力を発信する使命がある」として、「みんなの〇〇フェスティバル」と題して、JR西日本グループと共催の鉄道イベントや地元の農家やスイーツ店が集結するいちごイベントを実施した。また、その他館内店舗や協力会社が一体となり、小学生を対象にした店舗での接客体験や新幹線ホームの安全点検等、憧れの職業を体験できる「おしごと体験」イベントも開催している。一生忘れられない思い出づくりの場を創出し、将来的に地元福山で働くモチベーション向上、さらには働き手の県外流出を防ぐ社会問題の解決にもつなげている。

地域貢献賞 「イオンモール宮崎」 (宮崎県宮崎市)

【選考理由】

2024年3月より順次大規模リニューアルを行い、大型区画では集客力のあるテナントを誘致する。施設面では、中庭「ヒナタテラス」のすべり台の改修や屋内にて0~2歳向けの遊び場「ひなたひろば」の新設など、快適に過ごす機能を高めた。また、宮崎県と包括連携協定を結び、確定申告や期日前投票など、年間100件程度の公的なイベントを行う。さらに大地震時の防災モールとしての機能が期待されており「津波避難ビル」の認定を受けるなど、防災や環境面においても総合的に取り組んでいる。



地域貢献賞
maruyama class



地域貢献賞
エスパル仙台



地域貢献賞
マーサ21ショッピングセンター



地域貢献賞
ピオレ姫路



地域貢献賞
さんすて福山



地域貢献賞
イオンモール宮崎

(3) 支部特別賞

北海道支部特別賞「HOKKAIDO BALLPARK F VILLAGE」（北海道北広島市）

【選考理由】

北海道日本ハムファイターズのホーム球場「エスコンフィールドHOKKAIDO」を核としたエリア。街づくりの核としてスポーツコミュニティを中心に据えた施設で、さまざまなアクティビティの提供や、試合がない日も施設を開放するなど地域活性化に貢献している。今後のSCの在り方を考えるうえで多くの示唆に富み、地域に与えたインパクトなどが評価される。

東北支部特別賞「イオンモール新利府」（宮城県宮城郡利府町）

【選考理由】

これまで地域になかった新たな機能やコンテンツ、空間づくりを志向した趣味・余暇を提案するゾーン、テーマパークを導入するなどテナントミックスを強化して、新しい価値提供を目指し活性化を図っている。

関東・甲信越支部特別賞「三井ショッピングパークららぽーとTOKYO-BAY」（千葉県船橋市）

【選考理由】

1981年の開業以来、時代の変化・ニーズに対応し、現在は近接する「LaLa arena TOKYO-BAY」や「ららテラスTOKYO-BAY」との連携により街づくりの核として新たな価値を創造している。先進的なマーケティング活動やSCとしてのブランドが融合、エリアマネジメントを通じた公民連携、地域課題への取り組みなども相まって、次世代の商業施設のパイオニアとして進化を続けている。

中部支部特別賞「JRセントラルタワーズ／JRゲートタワー」（愛知県名古屋市）

【選考理由】

名古屋駅直上の超高層複合立体都市として、百貨店・商業施設・ホテル・オフィス・バスターミナルなど多様な機能を有する。国内や世界各地から東海地方を訪れる方への玄関口として開業25年を経て進化を続け、地域の発展に貢献しエリアを代表するランドマークとしての役割を果たしている。

近畿支部特別賞「くずはモール」（大阪府枚方市）

【選考理由】

コロナ禍を経て、MDやテナントミックスの見直しを図り、長年培ってきた足元顧客を大切にしながらも遠方から訪れる顧客にも満足してもらえる施設づくりを進めるなど、変化する環境への対応に挑んでいる。

中国・四国支部特別賞「イオンモール広島府中」（広島県安芸郡府中町）

【選考理由】

広島県内随一のSCで、何時訪れても目新しさを感じる。県内にとどまらず、中国地方各地から集客があり、その期待に応える進化を続けている。

九州・沖縄支部特別賞「三井ショッピングパークららぽーと福岡」（福岡県福岡市）

【選考理由】

従業員休憩室は7カ所あり、他施設にはない充実ぶりで、テナントが会議や面談に使用できるミーティングルームも完備。テナントとの関係性構築や従業員の満足度向上がイベント開催や販促企画へのテナントの積極的な関与につながり、施設運営に好影響を及ぼしている。

2. 選考基準

(1) 日本SC大賞

これからのSCのあり方を示唆し、社会的役割を果たしているSCを顕彰し、SC業界の一層の発展に寄与することを目的として設けられた賞であり、幅広い視野で総合的かつ客観的に見て参考・模範となるSCを選考する。今回が10回目。選考対象は全国のSC(ただし、特別賞は必ずしも「SCの定義」にあてはまらない商業施設等も可)。評価期間は2022年7月から2024年6月までの2年間の活動実績について複眼的に審査。

【選考基準】

<金賞・銀賞・銅賞>

以下の5項目について総合的に評価し、それらの取り組み姿勢が明確で、SDGsの視点を取り入れる等、将来に向けて模範となる革新性があるか。

1) マーケティング

地域社会の市場性やニーズに基づき、明確な自SCのコンセプト設定と事業展開をしているか。
生活者ニーズに対応したテナントミックスや新業態開発を視野に入れた継続的努力をしているか。
顧客との接点創出のため、ネット等ITを活用してSCの発信力を高めるといった誘客における仕掛けが見られるか。

2) ディベロッパーとテナントとのパートナーシップ形成度

ディベロッパーとテナントとの良好で協業的な関係形成、ディベロッパーマネジメントに基づくテナントへのサポートとESのための努力、配慮はなされているか。

3) 顧客サービス

顧客サービスに向けた施策を推進し、顧客から高い評価を得られているか。

4) サステナビリティへの取り組み

多様な来街者・利用者への快適な環境づくりと温室効果ガスや廃棄物等の削減、雨水の使用など地球環境に配慮がなされているか。

5) 地域への貢献と共存

地元行政や学校などと連携し、地域の防災機能を担ったり、魅力発信など、地域とのコミュニケーションに取り組んでいるか。

<部門賞>

上記の5項目のほか、さらに特定の部門で他の模範となる特に優れた活動を行っているか。

○ニューフェイス賞

2022年7月～2023年12月までにオープンし、斬新なMDコンセプトやテナントミックスで話題を集め、予想以上の集客があったか。

【選考対象】 2022年7月～2023年12月にオープンしたSC

【評価期間】 2022年7月～2024年6月

○リノベーション賞

共用部の有効活用、DX活用等(ソフト面に視点を置いた内容)。

○ES賞

「ショッピングセンターにおけるES宣言・行動指針」(2018年1月24日発表)に準拠した優れた取り組みを行っているか。

○特別賞

時代変化に対応し、その時代の課題や問われているものに対して取り組んでいる施設、もしくは商業エリアを顕彰する。

※「SCの定義」には必ずしもこだわらない。

(2) 地域貢献大賞

SCの地域社会への貢献と地域活性化への取り組みや考え方を踏まえ、継続的に地域のコミュニティの核として、地域に密着し地域住民の生活に欠かせない地位を築いているSCを選考する。今回が8回目。

選考対象は、全国のSC。評価期間は、2022年7月から2024年6月までの活動実績について複眼的に審査。

【選考基準】

「[地域貢献ガイドライン](#)」(2007年1月策定、2020年3月一部改訂)に基づいて、以下の6項目について総合的に評価し、地域の特性を生かして元気に頑張っていて、地域住民の支持を得なくてはならないSCを表彰。

1) 暮らしの総合的サポートの貢献度

2) 地域のプラットフォームとしての貢献度

3) 地域環境との共生、安全性・快適性への維持・管理の貢献度

4) 地域経済および地域商業の健全な発展への貢献度

5) 働く場の提供と雇用創出の貢献度

6) 地域の「まちづくり」への協力と貢献度

3. 第10回日本SC大賞・第8回地域貢献大賞選考委員会 委員一覧

<委員長>

棕本 充士 (株)グルメ杵屋 代表執行役社長
((一社)日本ショッピングセンター協会 副会長)

<副委員長>

高橋 哲也 三菱地所プロパティマネジメント(株) 代表取締役 専務執行役員
((一社)日本ショッピングセンター協会 理事 / 総務・会員委員会 委員長)

矢野 靖二 (株)大創産業 代表取締役社長
((一社)日本ショッピングセンター協会 理事)

<委員>

伊井 照 (株)アダストリア	支店営業本部・支店営業本部長
山元 麻有 (株)ジンス	店舗開発部シニアプロフェッショナル
落合 志乃 タリーズコーヒージャパン(株)	直営営業本部 東日本カンパニーストア第一グループ シニアディストリクトマネージャー
木山 茂年 (株)東京デリカ	代表取締役会長
青木 美香 (株)バンダイナムコアミューズメント	施設開発部営業開発課 マネージャー
渡辺 玲子 (株)ビームス	ストアディベロップメント部 ストアプランニング課 課長
米田 泰子 (株)東急総合研究所	執行役員 研究部部长 主席研究員 (SC経営士)
白鳥 和生 流通科学大学	商学部 経営学科 教授
平林 孝之 経済産業省	商務・サービスグループ 消費・流通政策課長 物流企画室長(併)
須藤 明彦 国土交通省	都市局 まちづくり推進課長
小川 敬 (株)織研新聞社	編集局 アドバイザー
鹿野島智子 (株)流通ニュース	流通ニュース 編集部 編集長
椿 浩 (一社)日本ショッピングセンター協会	専務理事

(敬称略)

*所属・役職等は2025年3月末時点

●ショッピングセンター(SC)の定義

ショッピングセンターとは、1つの単位として計画、開発、所有、管理運営される商業・サービス施設の集合体で、駐車場を備えるものをいう。その立地、規模、構成に応じて、選択の多様性、利便性、快適性、娯楽性等を提供するなど、生活者ニーズに応えるコミュニティ施設として都市機能の一翼を担うものである。

<SC取り扱い基準> ※2025年1月1日に改定

ショッピングセンターは、ディベロッパーにより計画、開発されるものであり、次の条件を備えることを必要とする。

1. 小売業の店舗面積は、1,000㎡以上であること。
2. テナントが10店舗以上含まれていること。
3. 最大店舗の面積がショッピングセンター面積の80%程度を超えないこと。
但し、最大店舗の面積を除いた小売業の店舗面積が1,000㎡以上である場合には、この限りではない。
4. 広告宣伝、共同催事等の共同活動を行っていること。

(注)第10回日本SC大賞・第8回地域貢献大賞は、改定前の基準の3,092SCを対象としています。

SCのイメージとしては、単体の施設ではなく複数の店舗の集合体であるとともに、1つの単位として管理・運営されている施設を指す。具体的な例としては、百貨店やGMS、SMなどを核とした大型商業施設やシネコン・ホテル・公共施設などを併設した複合施設、ファッションビル、駅ビルや地下街などがある。またディベロッパーという言葉も、本来の不動産開発という意味よりはむしろ、SCを管理・運営する立場を指す場合のほうが現状では多い。